別紙様式（要綱第４条関係）

**研究の国際化、オープン化に伴うリスクに係るチェックリスト（大学・研究機関用）**

**１．全般的な事項**

□ 所属する研究者・職員が、外国の機関・大学等との共同研究や交流等（資金、施設・設備・機器等の物品、人材の受入れを含む。）に伴う、利益相反・責務相反が適切に管理されないリスク、技術流出・情報流出につながるリスク、信頼の低下リスク（※）等のリスク（以下、「リスク」という。）に留意するとともに、必要に応じて機関として適切な対応をとることを求める仕組みがある。

※ 例えば、研究公募への応募において、研究者が、海外では制限が講じられている外国機関との共同研究の情報を提出しなかったことにより、虚偽記載や利益相反を疑われるような事態になり、本人の信頼が低下するリスク

・ 所属する研究者・職員がリスクを懸念する場合に、相談する窓口があるか。

* 所属する研究者・職員に対して、機関としてリスクに関する教育・研修を行う機会があるか。
* 機関がリスクを懸念する場合に、情報を把握し、対処する仕組みがあるか。

□　 所属する研究者・職員から、研究活動の透明性の確保に係る情報（職歴・研究経歴、現在の全ての所属機関・役職（兼業や、外国の人材登用プログラムへの参加、雇用契約のない名誉教授等を含む。）、外部機関から受けている各種の支援）について、機関の規程等に基づき、報告等を受けマネジメントを行っている。

・ 研究者・職員から提出された情報について、技術流出等のリスクのレベルに応じて、別途入手可能な情報等との比較など必要な確認をする仕組みがあるか。

・ 研究者・職員が何らかの関係を持つ外部機関のリスクレベルが変化した場合に、改めてリスク評価をしなおす仕組みがあるか。

**２．外国の機関・大学等との連携・契約や、外国からの報酬・物品の提供に係る手続きに関する事項**

□　所属する研究者・職員が、外国の機関・大学等と連携・契約において覚書（Memorandum of Understanding: MOU）等の書面を交わす際、機関の規程等に基づき、機関として確認や判断を行うなど、適切な手続きを実施している。

・ 確認の際、書面の提示を求めているか。

・ 確認の際、連携・契約における自らの機関および相手方の参加メンバーの提示を求めているか。

・ 相手方の組織や参加メンバーについて、外国ユーザーリストや他国のエンティティリスト、および別途入手可能な情報との比較などによるリスク評価を行っているか。

・ 機関がリスクを懸念する場合に、情報を把握し、対処する仕組みがあるか。

・ 所属する研究者・職員から、書面を交わす前に相談を受ける窓口は機関内にあるか。

□ 　所属する研究者・職員が外国の機関・大学等から補助金や助成金・報酬（※）・物品の提供を受ける際、機関として適切に報告等を受ける仕組みがある。

※ 報酬：奨励金、兼務の給与、賞金、贈答品、寄附金、出張費、講演料、執筆料等

・ 所属する研究者・職員がリスクを懸念する場合に、研究者・職員から相談を受ける窓口があるか。

・ 機関がリスクを懸念する場合に、情報を把握し、対処する仕組みがあるか。

□　所属する研究者・職員が外国の機関・大学等と長期間にわたって連携・契約している場合、相手方の参加メンバーや共同で行う研究内容に実質的な変化があった場合 に、その内容について当該研究者・職員から適切に報告等を受ける仕組みがある。

・ 外国の機関・大学等との連携・契約に関して、所属する研究者・職員が上述のリスクを懸念するようになった場合に、研究者・職員から相談を受ける窓口があるか。

・ 機関がリスクを懸念する場合に、情報を把握し、対処する仕組みがあるか。

□　外国の機関・大学等と共同で行う研究において、どのような成果物が得られるかを、所属する研究者・職員が適切に理解するよう認識を深める仕組みがある。

・　外国の機関・大学等と共同で行う研究の過程において、所属する研究者・職員は、我が国の安全保障や経済・社会に悪影響を及ぼす等の共同研究の目的外使用をされるリスクがあり得ることに留意することができているか。

・ 当該リスクが懸念されるようになった場合に、所属する研究者・職員から相談を受ける窓口があるか。

**３．外国の機関・大学等との連携・契約の相手方に関する事項**

□　所属する研究者・職員が、外国の機関・大学等と連携・契約する場合、その組織や相手方の参加メンバーについての情報、連携・契約の目的を適切に確認している。

・ 相手方の組織や参加メンバーについて、外国ユーザーリストや他国のエンティティリスト、および別途入手可能な情報との比較などによるリスク評価を行っているか。

・ 機関がリスクを懸念する場合に、情報を把握し、対処する仕組みがあるか。